

大分介護福祉士専門学校の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
大分介護福祉士 専門学校		平成11年4月1日	木村 秀人		〒870-8658 大分県大分市大字勢家字芦崎1140-2 (電話) 097-535-0201		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人平松学園		昭和29年3月16日	理事長 平松恵美子		〒870-8658 大分県大分市千代町2丁目-4-4 (電話) 097-535-0201		
目的	「介護福祉士」の資格取得を目指し、専門の知識及び技能を学ぶとともに、生命の尊厳と個々の人格が尊重できる、豊かな人間性を養う。介護の担い手として利用者さんを第一と考える人材を育成する。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
教育・ 社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	介護福祉士科		平成6年文部科学 省告示第84号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1860	1175	235	450	0	0
単位時間							
生徒総定員		生徒実員	専任教員数		兼任教員数	総教員数	
80人		28人	5人		21人	26人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表 有 ■成績評価の基準・方法 試験およびレポート、出席点など		
長期休み	■夏 季: 7月25日～8月31日 ■冬 季:12月23日～1月 6日 ■春 季: 3月24日～4月 6日		卒業・進級 条件		各学年における設定科目に合格すれば 進級できる。 2学年全ての科目を取得合格することで 卒業できる。		
生徒指導	■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人・保護者との連絡と訪問		課外活動		■課外活動の種類 なし ■サークル活動 無		
就職等の 状況	■主な就職先、業界等 特別養護老人ホーム・ 介護老人保健施設など ■就職率 ^{※1} 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 100 % ■その他 (平成 27 年度卒業者に関する 平成27年3月31日 時点の情報)		主な資格・ 検定等		介護福祉士国家資格 レクリエーション・インストラクター 園芸療法士 手話講習会入門課程 日本赤十字社救急法救急員		
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 平成27年4月1日 在学者 32名 平成28年3月31日 在学者 30名		■中退率 6.3 % 平成27年4月1日 入学者を含む) 32名 平成28年3月31日 卒業者を含む) 30名		■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 学生面談による指導、保護者との連携、補講などにより各教科担当教員の理解を深める		
ホームページ	ホームページURL: http://www.hiramatsu.ac.jp/kaigo 学校基本情報 URL: http://www.hiramatsu.ac.jp/wp-content/themes/hiramatsu/pdf/info_kaigo.pdf						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

「介護福祉士」として介護現場で活躍されている方に教育編成委員となっただき、最新の介護技術や知識を取り入れることにより、学内の講義や実習に活かす。また、学生が第1段階(3週間)・第2段階(4週間)・第3段階(5週間)の介護実習を行う上で、有意義な助言をいただき、学生が安心して介護実習や就職活動に臨めるようにすることを基本方針とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日

現在

名前	所属
三浦 晃史	社会福祉法人直心会 身体障害者支援施設 修光園 園長 大分県介護福祉士会 会長
松浦 正和	
河野 寛之	株式会社 ローカルドライブ 代表取締役社長

(開催日時)

第1回 平成28年7月30日 10:00~11:00

第2回 平成28年10月1日 10:00~11:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

介護実習において、介護福祉士の業務内容やその基礎知識を理解する。また、介護従事者としての心構えや多職種連携の大切さを学び、一人の人間としての成長を目指す。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ	個々のリズムや個性を理解するという視点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習をする。	百華苑・白水長久苑・親和園・やすらぎ苑・修光園など
介護実習Ⅱ-1	個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成。実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	百華苑・白水長久苑・親和園・やすらぎ苑・修光園など
介護実習Ⅱ-2	個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成。実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	百華苑・白水長久苑・親和園・やすらぎ苑・修光園など

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

介護福祉士を養成する教員として、授業内容及びに生徒に対する指導力等の習得・向上を目指すことを基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
松浦正和	
河野寛之	株式会社 ローカルデザイン 代表取締役社長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:http://www.hiramatsu.ac.jp/wp-content/themes/hiramatsu/pdf/report_kaigo.pdf

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページ URL:<http://www.hiramatsu.ac.jp/kaigo>

学校基本情報 URL:http://www.hiramatsu.ac.jp/wp-content/themes/hiramatsu/pdf/info_kaigo.pdf

学校関係者評価結果

URL:http://www.hiramatsu.ac.jp/wp-content/themes/hiramatsu/pdf/report_kaigo.pdf

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉士学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	「人間」の多面的理解(自己理解・他者理解)を通じて、人間尊重、権利擁護、自立支援とワーカー＝クライアント関係を理解する。	1前	30	2	○			○		○		
○			人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成・支援関係における人間関係の形成・対人関係とコミュニケーション力の基礎を身につける。	1後	30	2	○			○		○		
○			社会の理解	国民の基本的な権利を保障する制度の成り立ち、障害者福祉関連法をはじめ社会福祉に関する法律が成立した歴史を理解し、社会と自分(個人)との関係を理解する。	1・2通	60	4	○			○			○	
	○		保健体育	介護福祉士として、他者を支援するという立場からも自己管理は重要である。保健体育を通し、体を動かすことで健康増進についての意識を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
		○	レクリエーション	介護福祉士としてレクリエーション技術を習得することが、QOLを高める支援につながるとも考えられる。レクリエーションの社会的意義を学び、演習を通して実践に役立つ力を身につける。	1・2通前	60	4	○			○			○	
		○	手話	コミュニケーションツールの一つでも多く身につけておくことで、支援の幅が広がると考えられる。手話を学ぶことで言語・聴覚障害のある方と日常的なコミュニケーションが行えるよう学習していく。	2通	30	2	○			○			○	
○			介護の基本Ⅰ	介護とは何か、その中で介護福祉士の役割は何か、を理解することで介護福祉を目指すための一歩を引き出す。テキストだけでなく、話し合いや課題を通して人の考えを聞き、まとめ、自分の考えを伝えることができるように学ぶ。	1通	30	2	○			○			○	
○			介護の基本Ⅱ	セーフティーマネージメント展開するための基礎的な力を培い、応用力を高める。その実現には、介護従事者自らの健康や安全が保障されるべきであることの認識を深め、様々な場面で実践できるようになることを学ぶ。	2通	124	8	○			○			○	
○			介護の基本Ⅲ	人と人との関わりの実践と位置づけ、演習などを通して他者に共感でき、相手の立場にたって考えられる姿勢を身につける。	1前・2	26	2	○			○			○	
○			コミュニケーション技術	コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーションの技法の修得を目指す。英会話やコンピューターやグループディスカッションなどを通し、体験的に学ぶ。	通1前・2後2	60	4	○			○			○	
○			生活支援技術Ⅰ	「家事」の基本行動の理解と知識、介助に関する技術を基礎から学び、現場で自ら考えて実践的に活用できる能力や、利用者の方の個性に対応できるための能力を習得する。	1前	60	4	○			○			○	
○			生活支援技術Ⅱ	利用者の状態に応じた適切な食事介助の技法を演習でシミュレーションしながら学習していく。また、食後の口腔ケアの意義について理解を深め、利用者の方の心身状態に応じた口腔ケアの技法を演習を通して習得する。	1・2通・2通	150	10	○	△		○		○	○	
○			生活支援技術Ⅲ	その人らしい生活を支援するということを体験的に理解し、構造的に理解する。また一人ひとりに応じた生活支援技術についても学ぶ。	1通	60	4	○			○			○	
○			生活支援技術Ⅳ	介護を必要とする方の生活環境の考え方を学び、生活の観点から知識を深める。また、基本技術の確認として実技試験を実施する。	2前	30	2		○		○			○	
○			介護過程Ⅰ	支援を提供する対象が誰であれ、どのような生活場面であれ、課題を理解し目標を定め、求められる支援を導くためには介護課程という思考の展開が必要である。この授業は演習を取り入れながら進めていく。	1通	30	2	○			○			○	
○			介護過程Ⅱ	介護過程を個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の方の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決して行くために必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを理解する	2前	30	2	○			○			○	
○			介護過程Ⅲ	介護過程を学ぶ最終段階として、協働的問題解決を中心に、介護実習と相互性を活かし、実践的な考え方と技術の修得を目指す。その中で専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立していく。	2通	90	3	○			○			○	

○		介護総合演習Ⅰ	実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力などについて、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とし、実習との組み合わせの学習する。また、介護福祉士や社会人としての心構えを身につけるとともに、講義で学んだ知識が介護現場にどの様に活かされているのかの理解、基礎的な生活支援技術が個別ケアへどの様に展開されているのかの理解へとつなげていく。	1 後	40	4		○	○	○						
○		介護総合演習Ⅱ	前段階の実習において明確化した課題の改善に向け、校内学習との統合を図りながら介護福祉士に必要な知識・技術の向上を目指した授業を展開する。また、事後指導と事前指導も行う。	2 前	40			○	○	○						
○		介護総合演習Ⅲ	介護知識・技術の向上を目指した授業を展開する。特に前段階の実習において明確化した課題の解決策を学ぶ。また今までの実習を振り返り、社会人となるにあたっての意識付けを行う。	2 前	40			○	○	○						
○		介護実習Ⅰ	個々のリズムや個性を理解するという視点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習をする。	1 後	110	10		○	○	○					○	
○		介護実習Ⅱ-1	個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成。実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	1 後	150				○	○	○					○
○		介護実習Ⅱ-2	個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成。実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。	2 前	190				○	○	○					○
○		発達と老化の理解	高齢者の身体面と精神的機能の変化や、加齢に伴う障がいや疾病について理解する。障がいや病気に応じた社会参加や自己実現を目指す、高度な専門的介護が可能になるよう学習する。	1 前	60	4	○		○						○	
○		認知症の理解	認知症の中核症状と周辺症状を理解し、介護者を悩ます行動障がいについても、その背景を学ぶことで具体的な対応策につなげることを学ぶ。	1 通	60	4	△		○	○					○	
○		障害の理解Ⅰ	心身に障害のある人となない人の違いを感じ、医学的な基礎知識を学ぶ。	1 前	30	4	○		○						○	
○		障害の理解Ⅱ	点字を実際に学ぶことで、日常的なコミュニケーションが取れる基礎を作るきっかけに、障害に対する自分なりの見解がしっかりと持てるようにする。	2 通	30		△		○	○						○
○		こころとからだのしくみⅠ	介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び、理解して行くための授業である。介護を必要とする人のニーズに専門性の根拠となるものを学ぶ。	1・2 2 前 通	70	8	○		○						○	
○		こころとからだのしくみⅡ	上記で学んだ知識を基盤に、利用者の身支度や食事などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。今後の学習や実習において、さらに資格取得の為に深く学んでいくための基盤となる科目である。	1・2 2 通	50		○		○							○
○		医療的ケア(基礎)	医療関係者と連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施するための基礎を学ぶ。	2 1 前 後	50	3	○		○						○	
○		医療的ケア(演習)	痰の吸引・経管栄養・救急蘇生法などの演習を通して、知識と適切な技術を修得する。	2 後	10		○		○							○
合計			科目	単位時間(96単位)												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2学年全ての科目を取得合格することで卒業できる。	1学年の学期区分	前期・後期
	1学期の授業期間	21週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。